

拡大する世界所得較差, II
——粗世界生産の20分位分布——

大 谷 龍 造

**Increasing Gini Coefficients of Gross
World Product, II**

Ryozo Otani

This is the second report on the Lorenz distribution of gross world product. The world population is divided into icosile groups according to gross national product per capita, while the first one adopted decile groups. The period described extends from 1971 to 1992. Data were mainly taken from *World Tables 1993* and *The World Bank Atlas* for each year, prepared by the International Bank for Reconstruction and Development. Some other figures are estimated by the author.

The estimated gross world product increased from 3,190,994 in 1971 to 22,909,893 in 1992 over 20,743,317 million US dollars in 1990. These figures correspond to 3,469,812 in 1971, and 21,019,407 million dollars in 1990 in the first report. The reduction is almost covered by the over-estimation of gross national product of the USSR in the last investigation.

Also, the world population has decreased from 3,765,129 to 3,751,220 in 1971, and from 5,296,776 to 5,259,940 thousands in 1990. The revision of figures in Nigerian and Mexican statistics is the main source for the decrease in world population figures.

China is divided into 24 regions in the early years, and 25 or 26 regions in the later. India is divided into 25 states. The USSR is separated into the assumed 15 independent countries throughout the whole period. So, the presented figures are subject to continuous revision again in this report, as the additional data becomes available.

The calculated Gini coefficients shift from 0.656887 to 0.675476 in 1971, and from 0.727509 to 0.732632 in 1990. These shifts seem to be influenced by the difference in the above-mentioned statistical procedures and basic data, which have newly become available in *World Tables 1993*.

Along with the Gini coefficients of decile series, the ones of icosile series have calculated. There are differences of 0.008127 in 1971 and of 0.010151 in 1992 between the corresponding coefficients. The increasing rate of coefficients in each series is steep after 1982.

1 はしがき

筆者は、粗世界生産（以下、GWPと略記する）の1969～1990年における10分位分布を本『紀要』第3巻で発表した。その基礎数値は、主として世界銀行編集の *World Tables 1991*（以下、WT 91等と略記する）から取られた。旧ソ連等の数値は、*The World Bank Atlas*（以下、WBAと略記する）の1980年までのものを採用し、その後については外挿による推計を行なった。同じ方法による1991年の推計値と、WT 93の対応数値とを比較すると、前者がかなり過大になっている。それ故、本稿では、WT 93の数値を基礎にして、前稿のソ連の数値を改訂すると共に、旧ソ連諸国の過去の数値を推計した。

次に、中国とIndiaとを省ないし州を基本にして分割した。両国は、人口の上で世界に占める比率が単一国として扱うには余りにも大きいし、地域的にも広いので、分割した方が、不平等度を測定する目的にも沿うと判断した。しかし、十分な資料は得られなかったので、ここでも、限られた最近の数値を用いて過去のものも推計した。中国については、30の省・特別市・自治区を24～26に圧縮したし、Indiaについては、25の州に連邦直轄地分を比例配分した。そうした配分の基礎になる総人口は、中国にあっては『中国統計年鑑』の年末人口の平均値を年央人口と見なしたし、Indiaにあっては、WT 93の百万人単位の数値の前後5年の平均値を採用した。この方式をIndonesiaとBrazilにも適用した。

更に、本稿では、各年の10分位値と20分位値とを共に算出し、10分位値に現れない20分位の姿も示した。10分位に統合されると、20分位の特性が不明確になることがある。

2 旧推計との差異

各年の推計GWPについて見ると、本稿の数値は、1971～1986年にわたって、旧推計の94%前後であり、1987～1990年にわたっては97～98%である。主な原因は、ソ連の数値が旧推計では過大になっていたことにあるが、94%と97%との差が何によるかは、今のところ不明である。今後、旧ソ連諸国の関連数値が明らかにされるにつれて、この点も明らかになることが期待される。

既に、WT 94には、そうした諸数値の一部が収録されているが、本稿はWT 93を基本的資料として準備した。WT 94では中国などの数値が大幅に改訂されているので、問題点は今後の検討課題として残したい。

年央人口は、NigeriaやMexico等の数値が減改訂されたことを受けて、全期間にわたって、0.4～0.7%の減少になっている。その結果、1969～90年の年平均1.84%であった増加率が、1971～92年の1.79%に減少している。

推計GWPと年央人口とが、共に旧推計値より減少しているが、前者の減少率が後者のそれより大きいので、1人当たりのGWPは、1971～90年について見ると、922～3,968ドルから、851～3,944ドルに減少している。新旧のそれぞれの時系列の中で、前年より下落しているのは、共に1982年と1983年であり、81年の水準を上回るのが86年であることも同じである。このことは、旧ソ連に関する粗国民生産（以下ではGNPと略記する）の推計値の変化が、全体的な趨勢をも変えるものではないことを示しているかも知れない。

筆者が最も強い関心を持つGini値は、新推計では旧推計よりも、0.005～0.018の範囲で高くなっている。主な原因は、旧ソ連諸国の推計GNPが減少したことにある。旧推計では、中央アジアの低所得地域をも含めた、ソ連全体の平均値が世界のそれを上回っていた。新推計では、

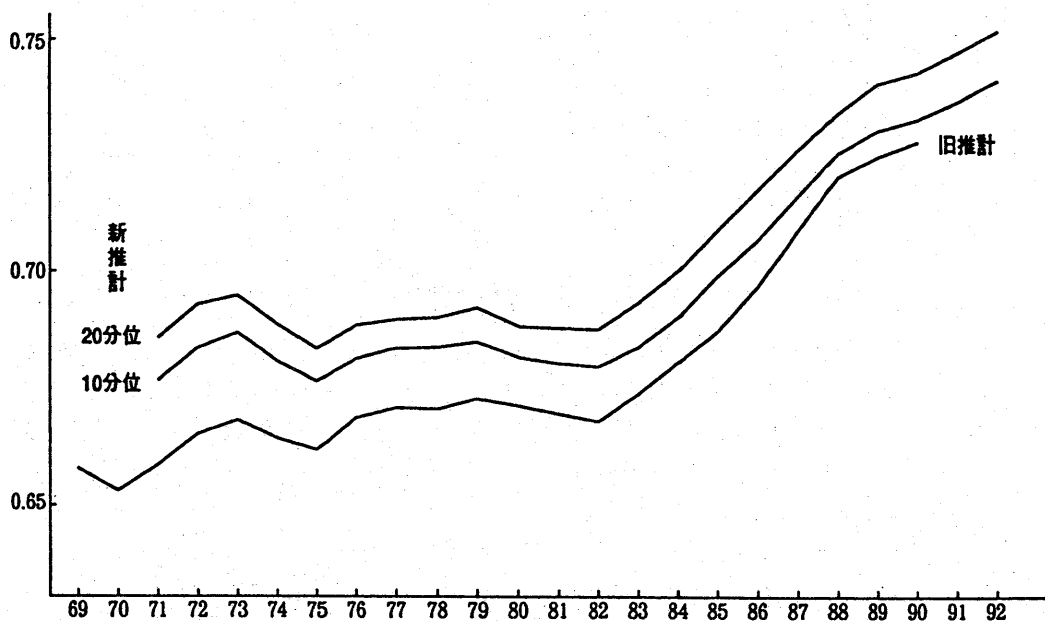


図1 Gini 値の時系列

Russia 連邦の平均所得さえ世界のそれを下回っている。Russia より平均値が高いのは、旧ソ連諸国の中では Estonia と Latvia だけである。

新旧の Gini 値の時系列を図示したのが、図1である。各年に対する2つの推計値の差は、1971~73年には0.018以上であるが、年を追って小さくなり、1990年には0.005になっている。更に、1987年以後は、この差がほぼ一定に維持されていることを考えると、旧推定値が0.005前後に相当する過小推計になっているかも知れない。1986年以前に対する、残りの0.000~0.013は、旧ソ連の GNP の成長率が筆者の仮定したものより、高いか低いか依存するであろう。

1987年値を出発点にして、過去の外挿値を計算するとき、仮定する成長率が低ければ、過去の GNP は相対的に大きくなり、それだけ不平等度は減少し、Gini 値は低くなる。仮定する成長率が高ければ、Gini 値は高くなる。実際の旧ソ連の経済成長率が、筆者の仮定したものより低ければ、実際の Gini 値は、旧推計より低くなる。逆に、実際の成長率が、新推計のために仮定したものより高ければ、実際の Gini 値は、新推計のそれよりは高くなる。

しかし、旧ソ連の GNP が冷戦期には過大に推計されていたことは、今ではほぼ明らかになっている。旧推計は、基本的には、そうした過大な推計値を前提しているので、粗世界生産の Gini 値が旧推計より小さくなる可能性は、旧ソ連関連では少ないであろう。

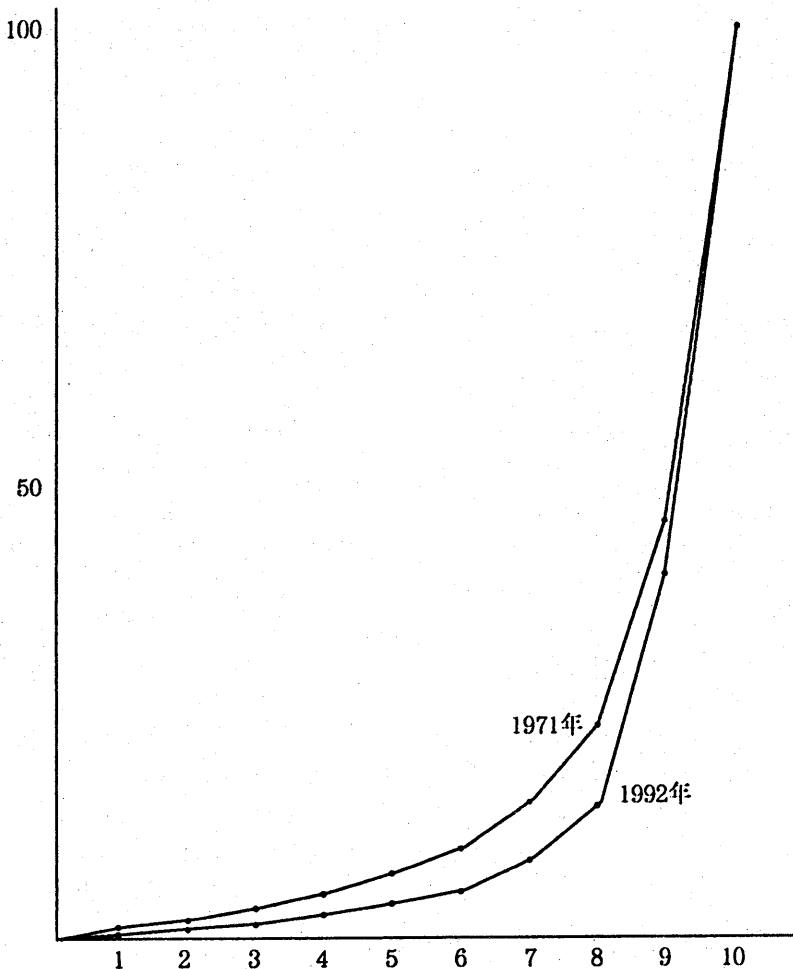
本稿の推計には含まれていないが、WT 94 に発表された中国の GNP の新推計値は、83年以前では旧推計値より小さくなり、84年以降では逆に大きくなっている。それ故に、GWP の新しい推計を行えば、成長率が少しではあろうが、高められる可能性がある。中国の GNP は、1人当たりで、1980年には約10%小さくなり、90年には10%以上大きくなっている。WT 94 では、1990年の中国の GNP は4,664億ドル、Russia のそれは5,585億ドルである。中国の新推計値の旧推計値に対する増加分は、Greece の GNP を少し上回る大きさである。

GWP の Gini 値の変化に最も大きな影響を与えるのは、GWP に占める 9～10分位の比率の変化である。新推計値について見ると、1971年から92年までに、GWP は年平均で9.84%の増加をしている。それに対して、9分位のそれは10.61%であり、10分位のそれは10.35%である。その結果、71年には、第1分位の値を100とすると、第9分位の値が2,710、第10分位の値が6,030、GWP 全体が11,434であったものが、92年には、第9分位が6,308、第10分位が13,351、GWP 全体が22,979になっている。こうした、分位間を Lorenz 折線で71年と92年とについて示すと、図2のようになる。

3 10分位値の変化

GWP および各分位値の1971～82年、82～92年、71～92年における年平均成長率は、表1のようになる。GWP 全体の増加率を上回る率で増加しているのは、第9と第10分位だけである。GWP の1人当たり平均値は、第8分位の平均値と第9分位のその間にあるから、このことからしても、GWP の分位間の不平等度が増加していることは明らかである。

図2 Lorenz 折線



第10分位の増加率が第9分位のそれより低いのは、アメリカの経済成長率が低かったことの結果である。1971～92年間のそれは、GWPのそれより低い8.33%である。71年には、ドルの国際金本位制を一時的に廃棄しなければならない状態にあったとは言え、一人当たりGNPで第2位のSwedenの1.19倍を超える水準にあった。それが、92年には、第10分位の平均値の95%の水準にまで相対的に低下している。71年には、第10分位平均値の119%の水準にあった。アメリカを除いた、第10分位の平均増加率は、12.90%であり、第9分位のそれを2.29ポイント上回る。

表1 10分位での分位成長率 (%)

分位	71～82	82～92	71～92	分位	71～82	82～92	71～92
①	9.46	2.83	6.25	⑥	12.01	0.64	6.44
②	10.43	3.12	6.89	⑦	14.53	0.13	7.43
③	10.89	2.81	6.97	⑧	14.40	1.24	7.94
④	11.18	2.34	6.88	⑨	14.24	6.75	10.61
⑤	11.30	1.36	6.45	⑩	12.23	8.32	10.35
				GWP	12.97	6.50	9.84

しかし、第8分位と第9分位との差は2.67ポイントであり、それ以上に大きい。第8分位に入っている主要国は、71年には、Ukraine, Peru, Hungary, Kazakhstan, Yugoslavia, Russia, Czechoslovakia, South Africa, Mexico, Chile等であった。92年には、Turkey, Iran, Iraq, Yugoslavia, Czechoslovakia, South Africa, Russia, Chile, Brazil, Malaysia等であった。Ukraine, Peru, Kazakhstanは第7分位へ、Hungary, Mexicoは第9分位へ移動した。Turkey, Iran, Iraq, Brazil, Malaysiaは第7分位から移って来た。

Ukraine, Kazakhstan, Iraqは、数値を前後と比較できるものにするために、無理に推計したものであるから、暫く置くとして、その他の分位間の移動をした諸国の平均成長率は

Malaysia	12.27%	Mexico	9.52%
Iran	11.89	Hungary	7.94
Brazil	10.82	Peru	4.97
Turkey	10.48		

である。第9分位の平均成長率よりも高率を達成したMalaysia, Iran, Brazilの3国は、先行する韓国, Greece, Portugal等との差を詰めることが期待される。Hungaryの成長率は第8分位全体のそれと同じであるが、人口が1981年を頂点として減少を続けており、92年の人口は71年を52千人下回っているため、1人当たりGNPの増加率がMexicoを上回っている。

他方、最も成長率の低い第1分位には、71年には、中国貴州省, Ethiopia, IndiaのBihar州, Uganda, 中国雲南省, 同広西省, Somalia, Nepal, 中国四川省, 同安徽省, 同河南省, Rwanda, Mozambiqueが、1992年には、Mozambique, Somalia, Tanzania, Ethiopia, Nepal, Uganda, IndiaのBihar州, 中国貴州省, Zaire, Bangladesh, IndiaのOrissa州, Madagascar, 中国安徽省等が含まれる。71年の中国の諸省, IndiaのBihar州, Mozambiqueは、飽くまで筆者が推計したものである。

これらの諸国の中でも、特に問題なのは、92年に新たに加わった, Bangladesh, Tanzania, Madagascar, Zaireであろう。71年には、BangladeshとTanzaniaは第3分位に、Madagascarは第5分位に、Zaireは第6分位に属していた。アフリカの3国は、70年代には比較的順調に成長

していたのが、第2次石油ショックがつかずきの原因になったように見える。Bangladeshは、正に Malthus の人口論が示唆した状態を出現させている。人口の年平均増加率は2.30%であり、世界のその1.79%を超える。

1982年を境にして、全体の期間を前後に分けて見ると、分位ごとの成長率の較差がより明確になる。最も顕著なことは、第6, 7, 8分位の82~92年における成長率が極めて低いことであろう。特に、第7分位は、この間に殆ど成長していない。82年の7,217億ドルから、86年の6,584億ドルに下落し、転じて90年の7,777億ドルに上昇し、92年には7,310億ドルに下落している。86年までの下落は第2次石油ショックによるものであろうし、91~92年の下降は東側諸国の政治的変革によるものと考えられる。

82年に第7分位に属していた主要国は、Nigeria, Turkey, Uzbekistan, Peru, Colombia, Romania, Ecuador, Poland, Cuba, Syria, Argentina, Malaysia, 韓国, Brazil 等であり、92年のそれは、Philippines, Cameroon, Uzbekistan, Peru, Morocco, Ecuador, Romania, Syria, Cuba, Colombia, Ukraine, Kazakhstan, Algeria, Thailand, Turkey 等である。92年には、Nigeria は第4分位、Poland, Malaysia, Brazil は第8分位、Argentina, 韓国は第9分位に属している。92年の新顔の中、Philippines, Cameroon, Morocco, Thailand は、82年には第6分位に、Ukraine, Kazakhstan, Algeria は第8分位に属していた。

第7分位は、82~92年に最低の年平均成長率を記録したのとは逆に、71~82年には最高の成長率を達成している。71年にこの分位に属していたのは、Algeria, Colombia, Turkey, Malaysia, Iran, Romania, 台湾, Poland, Brazil, Cuba 等であり、東側諸国はGWP全体の増加率とほぼ等しい水準を維持していたと推定されたし、Malaysia 17.75%, Brazil 16.35%, Colombia 15.74%の高い成長率が記録された。これらの諸国の中で、82~92年にも比較的順調に成長した Malaysia, Brazil は上の分位に移り、代りに入って来た諸国の経済が停滞的であったため、前半期に最高の成長率であった第7分位が後半期には最低の成長率を記録することになった。

4 20分位値の変化

図1ないし付表を見れば判かるように、10分位と20分位の Gini 値の間には、0.006~0.010程度の差が生ずるが、後者がより良く実態を反映しているのは言うまでもない。2つの系列は、ほぼ平行の関係にあるが、各分位に含まれる下位の諸国と上位のそれとの変動率の差などの影響を受けているように見える。

そこで、10分位値についてと同様に、82年を境にして、前期と後期とに分けて成長率を計算して見ると、表2のようになる。ここでは、10分位でも現れた分位間の成長率の差が、より明確に現れる。71~82年の成長率は、10分位では9.46~14.53%であったものが、20分位では9.37~15.67%になる。82~92年のそれは、0.13~8.32%から、 Δ 2.20~8.40%になり、全期のそれは、6.25~10.61%から5.63~12.03%に拡大される。

表2で最も特徴的なことは、第12分位と第13分位との82~92年の成長率がマイナスになっていることであろう。GWPの成長率は6.50%であったのであるから、これらの2分位の状態の異常さが分かる。内容的には、東側諸国の経済不振と中位高成長経済の上分位への移動とから成っている。これらの2分位は、10分位値では前後のプラス成長の第11ないし第14分位値と統合されるために、それらを含む10分位値での第6, 第7分位は、辛うじてマイナスになることを逃れている。

次に顕著な事実、同じく82～92年における第18, 19, 20分位の成長率の高さと、それ以外の分位のその低さである。上位の3分位の成長率が8.16～8.40%であるのに対して、下位の17分位にはその半分には達しているものもない。特に、第1と第9～16分位の成長率が低い。このことは、これらの分位にある経済には容易に克服できない経済成長に対する阻害要素があることを示唆しているように思える。NICs（新興工業化諸国）とかNIEs（新興工業化諸経済圏）とか言われるものは、そうした阻害要因を克服しつつある国ないし経済圏である。

表2 20分位の分位成長率(%)

分位	71～82	82～92	71～92	分位	71～82	82～92	71～92
①	9.37	1.67	5.63	⑪	11.25	1.91	6.70
②	9.53	3.71	6.72	⑫	12.60	△0.40	6.21
③	10.38	3.21	6.91	⑬	13.79	△2.20	6.39
④	10.48	3.04	6.87	⑭	15.08	0.96	8.13
⑤	10.48	2.85	6.78	⑮	13.95	1.96	8.08
⑥	11.13	2.78	7.14	⑯	14.77	0.66	7.82
⑦	11.15	2.44	6.92	⑰	11.81	3.09	7.57
⑧	11.21	2.25	6.85	⑱	15.67	8.16	12.03
⑨	10.88	1.77	6.44	⑲	13.60	8.40	11.09
⑩	11.64	1.03	6.46	⑳	11.18	8.25	9.78
				GWP	12.97	6.50	9.84

備考：△はマイナス

10分位値で2.83%の成長率を示した第1分位の後期の状態は、第2分位の3.12%との間にそれ程度大きな差がないように見える。ところが、20分位間での第1分位の成長率は1.67%であり、第2分位の3.71%の半分以下である。引続き第1分位に留どまっている典型的な国として、Ethiopiaを挙げることができる。そこでは、人口は2.97%、労働力は1.98%で増加しているが、初等教育の就学率は1975年に24%、91年に25%である。それに対し、71年にはEthiopiaと似たような水準にありながら、その後、比較的順調に成長しているBurkina Fasoでは、人口は2.45%、労働力は1.93%で増加しているが、初等教育の就学率は75年の16%から、91年の37%に改善されている。

Bangladeshと同様に、EthiopiaもMalthusの世界を現出させつつある。Ethiopiaの1971年の1人当たりGNPは65ドルであり、92年のそれは113ドルであるが、その間にドルの価値は30.5%に減価しており、92年の実質価値は34ドルでしかない。Ethiopiaの国内の87年価格で見ても、1人当たりGNPは、71年の260ビルから92年の193ビルに低下している。ちなみに、Bangladeshの国内の87年価格でのそれは、4,647タカから5,682タカに上昇している。ただし、71年のドル価値では、99ドルから66ドルに下落している。

10分位での後半期の成長率は、第9分位が6.75%であり、第10分位が8.32%である。その間の差は1.57ポイントであるが、20分位値で見ると、6.75%という数値は、異質な第17分位と第18分位との平均にしか過ぎず、両者は分けて考えるべきであることが明らかになる。第17分位の3.09%と第18分位の8.16%の間には、5.07ポイントの断層があり、この差は、全期を通じた成長率でも、4.46ポイントの最大の格差として維持される。加えて、第18分位の前期と全期間の平均成長率が最高であることも指摘されてよいであろう。

71年に第18分位に属していた主要国は、日本、Italy、Austria、UK、Belgium、Netherlands等であり、82年には、Italy、UK、Austria、日本になり、92年には、台湾、Israel、Spain、香港、Australia、

UK, Canada, Italy, Netherlands, Belgium, Austria 等に変っている。71年には、日本は、67%が第17分位に属し、33%が第18分位に属する水準にあったが、82年には、98%が第18分位に属し、2%が第19分位に属する水準まで所得の相対的水準を高めた。

それ故、71~82年における第18分位の高い成長率は、日本の高い成長率によってもたらされたものである。その間の国別の時価ドルでの成長率は、日本が16.63%、Austriaが14.86%、UKが13.21%、Italyが13.10%であった。82年に第19分位に移ったBelgiumの成長率は12.60%、Netherlandsは13.90%であった。このように、日本と同分位に属する諸国の成長率は、日本より多少は低いが、多くの国が13%以上の水準を達成している。

他方、第12分位以下には、13%を達成した分位はない。個別の国としては高い成長率を実現したものもあるが、集団としては、GWP全体の水準に達していない。それにも拘らず、71~82年間はGini値は0.003しか増大していない。それは、USを主要構成国とする第20分位の相対的な低成長によるところが大きい。加えて、最低の成長率を記録した第1分位と第20分位との成長率の差は、1.81ポイントでしかない。第20分位の11.18%以下を記録したのは、第1~7、9分位である。

GWPは、71~82年には12.97%という高い年平均増加率を実現したが、その中の7.73%は、石油ショック等によるUSの物価騰貴の反映である。物価上昇分を割引くと、4.86%の実質成長率が算出される。それに対して、82~92年のGWPの名目増加率は、6.50%であり、物価騰貴率3.62%で割引くと、実質成長率は2.77%になる。71~82年には、USの物価騰貴率を下回る成長をした分位はなかったが、82~92年には、3.62%の騰貴率を上回る成長をしたのは、第2、18~20分位だけであった。残る16分位の粗生産の実質ドル価値は、いずれも減小した。

この間に、名目GWPのGini値は0.063の増大を示した。71~82年におけるGini値の増大が0.003であったのに比べると、後半期における不平等の増大は顕著である。これ以上の不平等度の増大を防ぐのには、具体的に言えば、第18~20分位に属する諸国の成長率をGWP全体のその水準まで下げることと、第1~17分位の諸国の成長率を引き上げる必要がある。しかし、第17分位には、Malaysia, Mexico, 韓国, Greece, Portugal, 台湾などの新興工業圏が含まれる。これらの諸経済は、GWP全体より既に高い成長率を実現しつつある。むしろ、減速が必要である。

所得水準の低いところでは、Ethiopia, Bangladesh, India, Nigeria, 中国など、比較的所得の高いところでは、Egyptとか、東側諸国などに対する、長期的な施策が必要であろう。Indonesiaとか、Philippinesなどに対する、今以上の施策は必要ではないであろう。それと言うのも、低所得諸国の望ましい成長率の実現と、全地球的な環境の悪化とが調和的に解決されるという保障がないからである。MalthusやJevonsの警告が、全地球的にも妥当しないという証明は存在しない。先進国での経験を全地球に適用するのは合成の誤謬である。

付 表 粗世界生産の20分位分布 (Millions of US Dollars)

年次 分位	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979
1	12 753	13 338	14 766	17 083	19 771	19 702	20 865	22 472	25 208
2	15 156	15 361	16 667	19 733	23 820	23 033	24 788	28 050	31 910
3	16 130	16 438	18 411	21 194	25 271	25 256	26 672	30 862	36 132
4	16 823	17 291	20 023	23 039	27 075	26 726	28 846	33 514	37 006
5	17 995	18 333	21 315	24 720	28 377	29 097	31 245	35 418	39 346
6	18 868	19 537	22 281	26 860	30 338	32 288	34 710	39 171	43 743
7	21 566	22 419	25 607	29 500	35 066	35 032	38 749	45 066	50 643
8	24 909	25 844	27 130	31 206	39 963	39 822	43 666	50 491	57 428
9	31 195	31 887	33 428	38 962	45 966	53 241	58 508	66 632	75 929
10	37 311	37 694	43 165	50 486	57 945	59 822	69 203	81 379	87 219
11	43 726	47 052	52 617	60 289	71 160	73 128	81 198	92 782	108 506
12	52 036	55 407	62 939	78 483	91 789	107 542	120 321	133 894	153 109
13	71 391	80 156	91 282	113 468	136 941	160 109	187 043	216 185	246 390
14	90 837	105 722	132 249	164 534	196 744	228 382	257 488	294 276	346 978
15	127 422	137 102	159 871	199 732	243 987	284 936	315 500	352 410	417 493
16	153 530	165 266	191 276	240 401	293 776	341 439	395 030	448 882	524 334
17	309 640	344 143	401 535	481 661	546 314	601 108	659 436	741 606	874 268
18	446 775	519 905	647 637	770 595	903 835	1 008 109	1 137 828	1 363 012	1 690 928
19	684 338	782 516	951 998	1 151 415	1 354 822	1 540 789	1 723 127	1 967 455	2 288 321
20	998 593	1 111 006	1 258 193	1 375 974	1 519 332	1 724 176	1 938 708	2 199 678	2 517 115
GWP	3 190 994	3 566 417	4 192 390	4 919 335	5 692 292	6 413 737	7 192 929	8 243 234	9 652 006
年央人口 (万人)	375 122	382 784	390 356	398 078	405 930	413 332	420 596	427 826	435 256
20分位 Gini 値	0.683603	0.691272	0.694078	0.687835	0.682122	0.687878	0.689221	0.689522	0.690956
10分位 〃	0.675476	0.683146	0.686317	0.681297	0.676176	0.681883	0.682905	0.682840	0.684079
1人当たりドル	851	932	1 074	1 236	1 402	1 552	1 710	1 927	2 218

年次 分位	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
1	29 690	33 506	34 158	33 473	34 298	35 393	36 006
2	37 243	40 520	41 257	41 224	43 157	43 674	45 223
3	42 679	46 835	47 808	48 096	49 624	51 811	49 729
4	44 370	48 266	50 370	51 259	51 530	54 833	54 036
5	46 955	52 010	53 879	54 880	54 628	57 611	57 924
6	52 602	59 944	61 074	62 750	63 998	65 682	63 927
7	59 843	67 306	69 020	70 830	73 529	75 438	76 073
8	68 377	76 956	80 163	82 529	82 895	85 414	83 429
9	89 358	97 292	97 136	97 714	94 802	94 622	96 110
10	103 311	119 789	125 330	125 333	124 497	121 073	117 847
11	127 727	136 399	141 309	143 756	146 524	138 898	137 110
12	175 980	191 989	192 053	180 946	175 861	170 002	162 862
13	278 167	295 879	295 687	278 046	268 183	264 037	245 548
14	393 875	415 955	426 002	418 346	416 097	400 923	412 811
15	464 840	520 521	536 041	521 831	522 058	514 674	509 604
16	606 732	680 953	698 494	660 826	659 557	649 171	676 367
17	1 020 754	1 078 050	1 057 290	1 005 610	977 706	958 518	983 565
18	2 004 239	2 185 489	2 215 359	2 181 653	2 142 783	2 116 912	2 276 831
19	2 586 704	2 845 549	2 782 213	2 708 427	2 748 765	2 865 415	3 183 591
20	2 844 410	3 088 760	3 203 609	3 437 902	3 810 015	4 077 580	4 319 249
GWP	11 077 856	12 081 968	12 208 252	12 205 431	12 540 509	12 841 681	13 587 842
年央人口 (万人)	442 950	450 692	458 586	466 762	474 566	482 778	491 558
20分位 Gini 値	0.688202	0.687395	0.686674	0.691954	0.699884	0.706524	0.715439
10分位	0.681051	0.680214	0.678568	0.682614	0.689516	0.695899	0.705357
1人当たりドル	2 501	2 681	2 662	2 615	2 643	2 660	2 764

年次 分位	1987	1988	1989	1990	1991	1992
1	36 669	39 860	41 299	42 126	41 804	40 293
2	45 929	51 590	55 354	57 752	58 481	59 404
3	49 699	59 459	62 486	67 569	65 648	65 574
4	55 052	62 479	67 631	70 241	68 835	67 951
5	61 068	68 390	70 597	74 641	70 943	71 358
6	67 180	76 744	81 426	85 611	82 293	80 304
7	79 568	87 493	91 424	95 322	91 498	87 830
8	88 419	93 082	97 373	101 556	99 859	100 152
9	96 978	100 902	106 487	111 460	112 233	115 773
10	113 221	120 795	130 675	142 072	139 369	138 879
11	130 755	135 052	147 536	151 686	160 267	170 770
12	158 302	162 656	169 616	170 694	173 483	184 580
13	254 990	268 954	281 217	289 658	291 794	262 101
14	426 458	442 561	470 957	488 070	483 902	468 881
15	521 036	565 920	618 615	665 102	673 613	651 136
16	721 492	748 691	720 201	751 645	798 546	745 656
17	1 031 988	1 106 725	1 188 216	1 245 048	1 252 391	1 432 926
18	2 637 647	3 269 416	3 702 424	4 085 523	4 356 445	4 855 751
19	3 823 114	4 772 350	5 238 668	5 656 997	5 863 824	6 231 270
20	4 640 345	5 291 662	5 899 038	6 390 544	6 777 257	7 078 893
GWP	15 039 910	17 524 781	19 241 240	20 743 317	21 662 485	22 909 482
年央人口 (万人)	500 242	508 790	517 398	525 994	535 196	544 304
20分位 Gini 値	0.724783	0.733852	0.738889	0.742139	0.747027	0.751921
10分位 〃	0.715247	0.724966	0.729668	0.732632	0.736838	0.741770
1人当たりドル	3 007	3 444	3 719	3 944	4 048	4 209

追記：WT 94 による1992年のGWPは23,115,342百万ドル，人口は544,138万人，Gini 値は20分位0.748538，10分位0.737396，1人当たり4,248ドルである。